



総合 リハビリテーション センター



総合リハビリテーションセンターの めざすもの

総合リハビリテーションセンターは、1969年(昭和44年)、「兵庫県玉津福祉センター」として開設され、その後施設名の改称を経て、今日まで、40年余の歴史を重ねてまいりました。

この間、中央病院をはじめ、職業能力開発施設、福祉のまちづくり研究所、自立生活訓練センター、障害者スポーツ交流館や小児病棟などを順次整備し、また、最近では、各施設の相談支援事業所を集約化し、総合相談所を開設しました。

センターでは、このような医療・福祉の多様な施設機能を生かし、高度で専門的な医学、社会、職業リハビリテーションサービスを一体的に提供し、障害者や高齢者の自立した生活や社会参加を支援しています。また、そのために必要な福祉機器等の研究開発や相談・情報提供、専門人材の養成研修を行っています。

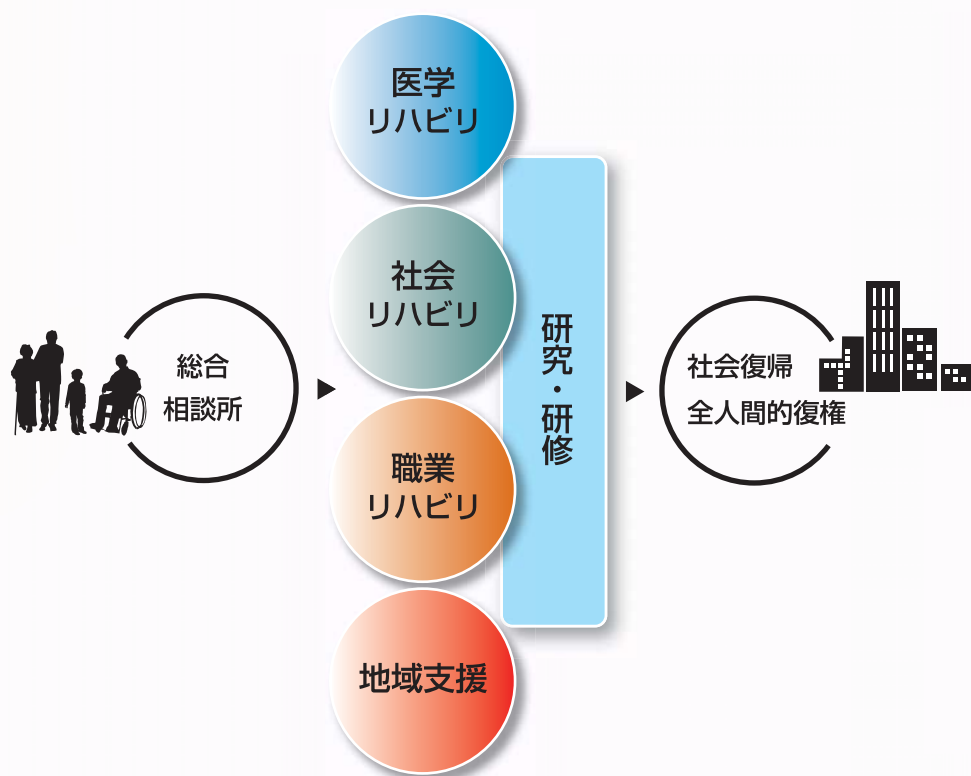
少子高齢化により障害者・高齢者の医療・福祉ニーズが一層複雑・多様化する中、高度で専門性の高いサービス提供と先導的な取り組みを通じて、兵庫県におけるリハビリテーションの県域拠点としての役割を発揮してまいります。

理 念

- 1 リハビリテーションにおける県域の中核施設をめざす
- 2 高度で専門的なリハビリテーションを中心として保健・医療・福祉の総合的なサービスを提供し、障害者等の全人間的復権をめざす
- 3 専門的な研究・研修機能を充実し、情報提供及び人材育成を行うなど先導的役割を果たす

障害のある方々の社会復帰に向け 一貫したサービスを提供します

医学・社会・職業、在宅生活、研究・研修
各分野のリハビリテーションの場が結集



障害のある子どもからおとなまでを対象に、医学リハビリテーション、社会リハビリテーション、職業リハビリテーション、研究・研修、在宅生活の多様な機能をもつ各部門が一体となって相乗効果を発揮し、基本能力の回復や自立、職場や地域、家庭への復帰を総合的に支援します。



施設案内



医学リハビリ施設

- ①リハビリテーション中央病院
- ②小児リハ病棟
- ③屋外リハビリ施設

福祉施設

- ②1F おおぞらのいえ 児童発達支援事業所
2F 障害児入所施設 おおぞらのいえ
- ⑨救護施設 のぞみの家
- ⑩特別養護老人ホーム 万寿の家

社会リハビリ施設

- ④障害者支援施設 自立生活訓練センター
- ⑤障害者自動車運転訓練施設
- ⑥障害者スポーツ交流館

■土地・建物

土地

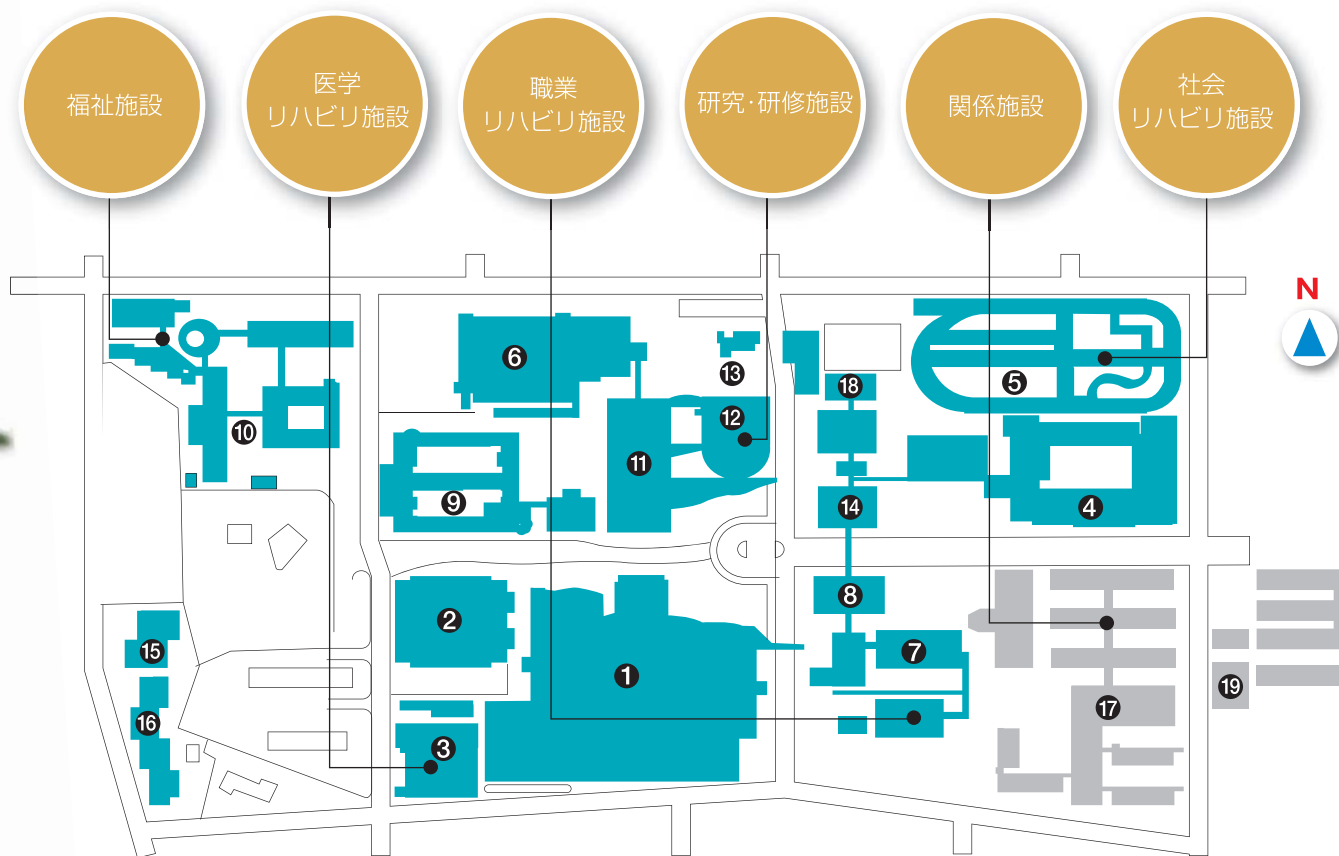
76,957.33m²

建物

56,333.59m²

■施設概要

施設区分	名称	延床面積 (m ²)	開設年月日
病院	中央病院	21,569.79	S44.10. 1
	小児リハ病棟・子どもの睡眠と発達医療センター		H20. 4. 1
救護施設	のぞみの家	2,980.76	S27.11. 1
診療所	医務室		
特別養護老人ホーム	万寿の家	2,764.12	S40.11. 1
障害者多機能型事業所	あけぼのの家	3,860.55	S27. 4. 1
職業能力開発施設	職業能力開発施設		S52. 7. 1



職業リハビリ施設

- ⑦ 1F 障害者多機能型事業所 あけぼのの家
2F 職業能力開発施設

研究・研修施設

- ⑪ 1F 研修部門
2F・3F 研究部門
- ⑫ 1F 福祉用具展示ホール
- ⑬ ウェルフェアテクノハウス神戸

管理部門

- ⑭ 1F 総合相談所
2F 総務部門
- ⑮ 医師宿舎
- ⑯ 女子寮
- ⑰ 保育室

関係施設

- ⑦ 3F 事業団事務局
- ⑧ 1F 県立身体障害者更生相談所
- ⑰ 県立障害者高等技術専門学院
- ⑲ 国立障害者リハビリテーションセンター
自立支援局 神戸視力障害センター

施設区分	名称	延床面積 (m ²)	開設年月日
障害者支援施設	自立生活訓練センター	5,726.77	H 5.11.1
	身体障害者自動車運転訓練施設	(5,300.00)	H 7.5.1
障害児入所施設	おおぞらのいえ	1,555.00	H20.4.1
障害者体育施設	障害者スポーツ交流館	5,004.51	H 18.5.20
研究・研修施設 補装具製作施設	福祉のまちづくり研究所	6,450.84	H 5.10.20
	ウェルフェアテクノハウス神戸	196.58	H 8.3.18

医学 リハビリテーション

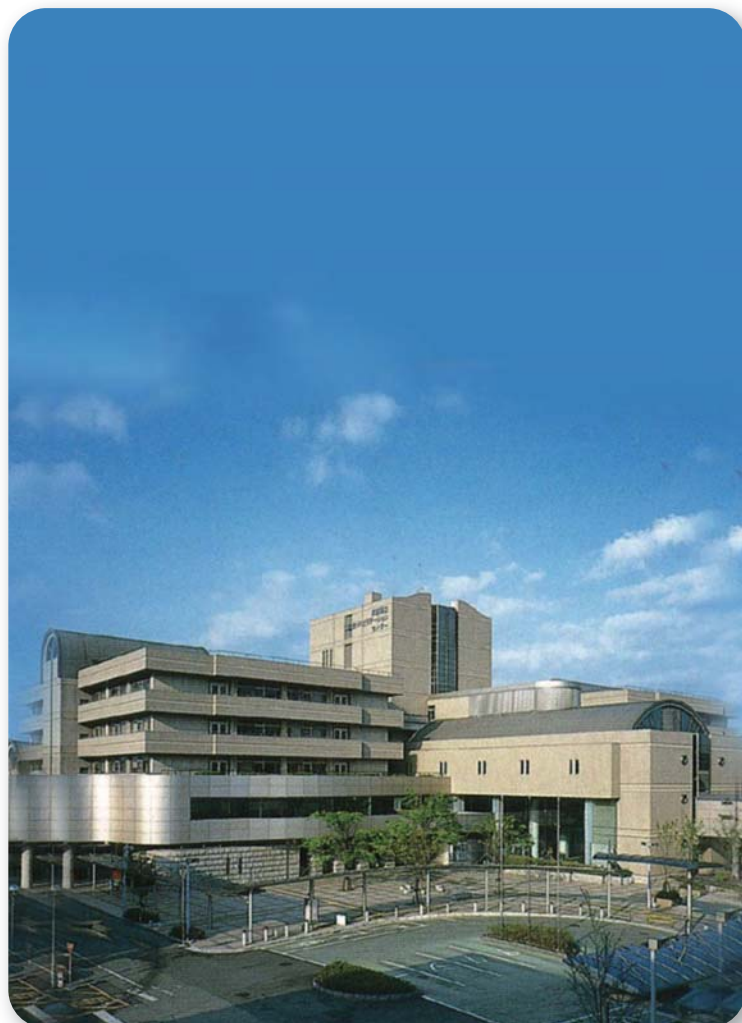
日常生活に帰るために

病気やケガによって生じた障害を医学的知識や方法によって除去・軽減を図ることが医学リハビリテーションです。

障害の原因となっている疾病の治療や管理を行いながら機能障害を改善し、生活の基本となる日常生活上の能力回復を中心に、家庭や社会生活に必要な能力の回復も図っていきます。

そのためには、社会リハビリテーション・職業リハビリテーションとの連携が不可欠です。

リハビリテーション 中央病院



運営理念

私たちのめざすもの

- 1 | 患者さまの立場に立ったチームアプローチによるリハビリ医療
- 2 | 入院から在宅までの一貫したサービス
- 3 | 安全で質の高い先導的なリハビリ医療

病院概要

兵庫県におけるリハビリテーション医療の中核病院として、地域で対応困難な脊髄損傷や四肢切断、神経難病、脳卒中等による重度の障害のある人たちを対象に、専門医やセラピスト、看護師等のチームアプローチによる高度で専門的なリハビリテーション医療を提供しています。最近では、全国で初めて「子どもの睡眠と発達医療センター」や「ロボットリハビリテーションセンター」を開設し、最新の医療にも取り組んでいます。

また、総合リハビリテーションセンター内の各施設と連携し、入院から社会復帰までの一貫したサービスを提供しています。

■病床数：一般病床 330 床

◎ 脳血管障害など回復期リハ病棟	100 床
◎ 脳卒中・神経難病など	50 床
◎ 切断・脊髄損傷・泌尿器科疾患など	50 床
◎ 骨関節疾患・脊椎疾患など	100 床
◎ 小児整形疾患・小児睡眠障害など	30 床

■診療科目

内科／循環器内科／神経内科／整形外科／リウマチ科／小児科／神経小児科
泌尿器科／眼科／リハビリテーション科／放射線科／麻酔科／歯科

■施設認定等

日本医療機能評価機構認定病院
付加機能（リハビリテーション機能）認定病院
リハ総合承認施設
脳血管疾患等運動器・呼吸器リハ承認施設



全人間的 復権をめざす

兵庫県におけるリハビリテーションの中核病院として、専門医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理判定員、看護師等の専門職員が一体となったチームアプローチによる医療を提供します。また、総合リハビリテーションセンター内の社会・職業リハビリテーションや地域とも連携し、全人間的復権を支援します。





脳血管疾患及び頭部外傷患者並びに 脊髄損傷等の重度障害者への リハビリテーション医療

脳血管疾患・頭部外傷・脊髄疾患・神経疾患などによって引き起こされる麻痺や言語障害を中心とした「機能障害」、日常生活動作における「能力障害」、さらには住まいや環境に関して社会復帰を妨げている「社会的不利」の状況に対応して、段階的にリハビリテーション治療プログラムを作り、種々の専門職からなるチームアプローチ及び病院内外の多くの部門との連携を行い、社会復帰に向けた治療を行います。

人工関節置換術等の手術医療

変型性股関節症や膝関節症などに対する人工関節手術、リウマチの患者に対する関節手術や人工関節手術、靱帯損傷などのスポーツ傷害に対する手術、頸椎や腰椎などの脊椎疾患に対する手術を行っています。



神経難病等への対応

パーキンソン病や重症筋無力症などの神経難病、アルツハイマー病やその他の認知症などの神経変性疾患、ギラン・バレー症候群や慢性炎症性脱髄性多発根神経炎などの末しょう神経疾患に対し、神経筋生検などの病理学的検査、脳波・誘発筋電図・誘発脳波などの神経生理学的検査、CTやMRIなどの画像検査を実施し、診断精度の向上と治療・リハビリテーション方法の改善に取り組んでいます。



高次脳機能障害のリハビリテーション

頭部外傷の後遺症などによる高次脳機能障害に対し、作業療法士及び言語聴覚士によるリハビリテーション、心理判定員による経過観察評価とリハビリテーション等を行うとともに、総合リハビリテーションセンター内の社会・職業リハビリテーションとも連携し、在宅復帰に向けた支援を行っています。

泌尿器疾患への対応

脳卒中や脊髄損傷などの神経疾患に伴う排尿障害や性機能障害に対する診療・相談などを行っています。また、女性の尿漏れや排尿障害、膀胱脱などに対する専門外来として、女性排尿ケア外来を行っています。

循環器疾患への対応

下腿静脈炎、静脈血栓症、肺塞栓症のリスクとなる下肢静脈瘤に対して硬化療法及び手術（高位結さつ術、下肢静脈瘤抜去術）を行っています。



音楽療法

脳卒中などの後遺症やパーキンソン病などに対して、音楽療法士による楽器演奏や歌唱を通じた注意障害の改善、手指や呼吸機能の維持、歩行時のリズム調整等の訓練を行っています。

患者向け教室

糖尿病に関する「生活習慣病を学ぼう会」、関節リウマチに関する「リウマチ教室」及び「脊髄損傷者の性機能に関する講習会」を主に入院患者を対象として実施しています。



小児リハビリテーション

小児特有の先天性内反足、先天性股関節脱臼、骨形成不全症などの骨系統疾患、脳性麻痺、ポリオ後遺症、二分脊椎や外傷後の脳・脊髄に起因した麻痺に関する疾患等の診療を行っています。また、小児専用の訓練室を設け、粗大運動、日常生活、学習活動などの発達を支援するとともに、言語発達の促進や摂食・嚥下機能の向上を目的とした訓練、発達検査や知能検査などの心理検査も行っています。

子どもの睡眠と発達医療センター

子どもたちに広がる様々な睡眠問題、特に「朝起きることができず不登校状態にある」あるいは赤ちゃんの時から夜間睡眠中にしばしば目を覚まし、よく泣き、不機嫌であるなどの睡眠問題と関連した「運動発達」「言葉やコミュニケーション発達」に問題を抱えた子どもさんたちとご家族の不安や苦しみを「ご本人」「ご家族」「医療スタッフ」のチームワークで解決すること、更にはこのような問題の出現を予防することを目指します。

.....



ロボットリハビリテーションセンター

四肢切断や脊髄損傷など運動器に障害のある人に対し、ロボットテクノロジーをリハビリテーション手段として活用し、効果的なリハビリテーション手法を開発・提供することを目指しています。上肢切断の方に対しては、筋肉の信号でハンドを動かすことができる筋電義手を用いたリハビリテーションを提供しています。下肢切断の方に対しては、コンピュータ制御の高機能な義足を用いたリハビリテーションを提供しています。脊髄損傷（不全麻痺）の方に対しては、歩行再建のためのリハビリ手段として装着型の歩行支援ロボットの導入に向けた研究や実証等を行っています。また、大学や企業と連携した新たなロボット機器及びロボット技術の研究開発、ロボットリハビリテーションの普及啓発のための一般向けシンポジウムの開催などを行っています。

.....

様々な疾患に対応した設備

脊髄損傷患者に対応した病棟（4 階東病棟）の設備として、居室、浴室・トイレに天井走行式リフターがあります。骨関節疾患術後の歩行練習を水治療法として縦 15m、横 5m、深さ 1.2m の温水プールで行います。屋外での歩行練習や車いすでの移動練習を行うことができる屋外練習場には坂道昇降練習用のスロープや JR 明石駅の階段と段の高さや幅が同じように作られている階段があります。



社会 リハビリテーション

いきいきとした社会生活のために

普通の暮らし…社会生活を、障害のある人たちにも実現していくことを「社会リハビリテーション」といい、地域に暮らし、家庭や学校、職場の一員として復帰することを目指します。また、その受け入れを妨げる要因を発見してその解決を図っていくことも求められます。一人ひとりの目的に合わせて、普通の家庭生活、就学や就労のためのアプローチを行います。

障害者支援施設

自立生活訓練センター

障害のある人が、地域で生活を営むことを目的に、自立訓練を行う施設です。利用者のニーズに応じた支援プログラムに沿って、訓練・評価・生活支援をし、動作能力や社会生活力などを向上させ、職場や学校、家庭など地域社会へ復帰するためにサービスを提供しています。

■障害者支援施設

■施設入所支援 135人

■自立訓練(機能訓練 108人 / 生活訓練 24人)132人

■短期入所

■主な設備等

◎居室 2人部屋 / 68室、

ハーフウェイハウス / 5室

◎介護リフター / 17基、全自動 ADL 便器

◎障害者自動車運転訓練施設 5,300m²

◎障害者用訓練自動車 4台

※ハーフウェイハウス

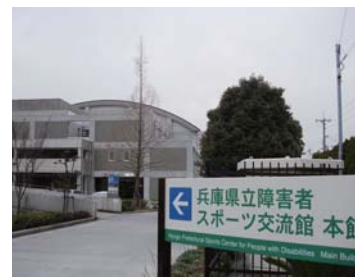
地域に帰り家庭生活ができることを目的として
実際の生活の流れやリズムを模擬体験できる



ハーフウェイハウス

障害者スポーツ交流館

県内の障害者スポーツの中核拠点として、総合リハビリテーションセンター内の各施設とも連携し、障害者スポーツの推進、スポーツを通じた健康の維持増進および県民相互の交流を図っています。



障害者スポーツ交流館

■主な設備等

◎アリーナ (バスケットボールコート2面) ◎トレーニングルーム

■休館日

◎月曜日 (祝日の場合はその翌日、12/31、1/1)

■開館時間

◎午前 9:00～午後 9:00

障害児入所施設 おおぞらのいえ

病院への入院が不要で、家庭における養育が困難な18歳未満の主に肢体不自由児が対象です。温かく家庭的な生活の場の提供とともに、日常生活や社会的自立を目指します。また就学の必要な児童は、併設する兵庫県立のじぎく特別支援学校おおぞら分教室(幼稚園から高等部まで)へ通学できます。

■福祉型障害児入所施設 20人 ■短期入所 4人

■児童発達支援事業 10人

■日中一時支援(日帰り利用・神戸市指定) 2人



自立訓練（機能訓練）

車いす操作や立位歩行がまだ不慣れな方を対象に、障害者スポーツ交流館や当センター周辺の走行等による移動能力向上とともに、体力、持続力の向上を目的とする訓練を行います。



所外訓練

自動車運転評価・訓練

障害のある人の運転技術の評価及び訓練はもちろん、自動車の改造、運転補助装置の開発や選択まで、安全運転を支援します。



訓練風景

自立訓練（生活訓練）

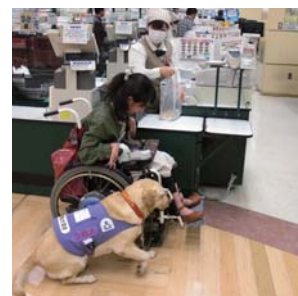
病気や事故の後遺症として高次脳機能障害（注意障害・記憶障害・遂行機能障害等）を有する利用者への支援プログラムを実施しています。

個別支援プログラムとともにグループワークでのコミュニケーション支援を行っています。

また家族との協働により効果的な支援方法を検討し、その成果を施設や地域での生活につなげていきます。

介助犬・聴導犬の認定審査事業

障害のある人の自立と社会参加の促進を支援するための介助犬、聴導犬の認定審査を行っています。



介助犬認定審査

スポーツ教室からクラブの支援

重度障害児者から高齢障害者までを対象としたスポーツ教室を開講。教室終了後には各種クラブへの参加や大小様々なスポーツイベントへの参加を案内しています。

介護予防・健康づくりとリハビリスポーツ

アリーナでの健康スポーツ教室、総合リハビリテーションセンター施設を利用される方々へのストレッチ、車いすトレーニングの実施および障害の程度や体力に応じたプログラム提供などを行っています。

スポーツイベントの企画・開催

県内および全国各地から参加する大会や地域交流を目的としたスポーツイベントを主催・共催しています。

ボランティア養成講習と活動推進

障害者スポーツの審判講習会の開催から利用クラブの支援、イベントのスタッフなどに係る人材育成とその活動環境を提供しています。

情報の収集と発信

障害者スポーツイベント、サークル、関連施設情報などをインターネットやスポーツカレンダーを通じて広く県民に配信しています。



シットイングバレーボール



車いすバスケットボール



ツリークライミング



すいかわり



ピザ作り

児童発達支援事業

身体等に障害のある就学前の児童を対象に、日常生活動作の習得及び集団生活への適応に必要な支援を行っています。



おわりの会（児童発達支援事業）

職業

リハビリテーション

働きたいという思いに添えて

就労年齢にある人たちに働く場を提供し、そのための職能教育（訓練）などを行う一連のプロセスを「職業リハビリテーション」といい、利用者の年齢が低いほど、その後の長い人生にとってきわめて大きな役割を持つと考えられます。

特徴ある職業訓練の実施や働く場所の確保・創出、継続的な就労支援を持続的に行うことが、県政策施設としてのセンターの使命であると考えています。

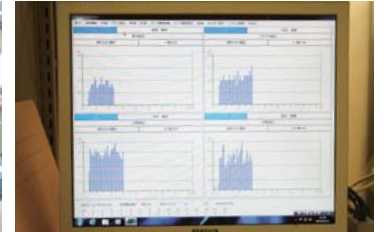


職業能力開発施設

障害のある人の雇用・就業・定着を支援するため、独自に開発した科学的な評価システムによってそれぞれの職業能力を見だし、訓練、職場実習、定着支援など一連のサービスを提供しています。



評価システム



評価システム

障害者多機能型事業所 あけぼのの家

障害のある人の就労を支援しています。自立した日常生活と社会経済活動への参加をうながすために、利用者のニーズに基づいた個別支援計画に沿ってさまざまな事業に取り組んでいます。また社会見学、企業見学、スポーツ大会など社会参加の機会も設けています。

■障害者多機能型事業所 就労移行支援 20 人
就労継続支援 B 型 40 人



就職準備訓練等における基礎・応用訓練

障害者雇用・就業支援ネットワーク構築事業

障害者雇用推進に向けて事業主、労働組合まで含めた多様な機関・団体が全県的に連携をすすめていくネットワークの事務局を担っています。

発達障害・高次脳機能障害のある人への就労支援

発達障害・高次脳機能障害のある人を対象に、大学、病院、労働局、発達障害者支援センター、障害者就業・生活支援センター等とのチーム支援によるビジネスコミュニケーション科の運営を短期公共職業訓練として行っています。



職業評価・開発訓練



職業評価・開発訓練

障害者しごとと支援員活動事業

県養成の就労支援ボランティアを障害者しごとと支援員として登録し、ニーズに応じて派遣し、職場定着を促進する事業を行っています。

障害者しごとと体験事業

しごとと体験推進員を配置し、職場実習受入企業の開拓・確保を図り、職場体験の円滑な実施に向けた支援を行っています。



在校生職能評価



障害者しごとと支援員活動事業

就労移行支援

一般企業への就労希望者に、就労に必要な知識・能力向上のための基礎訓練・応用訓練・職場実習あるいは企業内での施設外作業などによる実践訓練を行い、求職活動やフォローアップなど、障害のある人の「働きたい」を支援しています。

職場適応援助者支援事業

障害のある人が円滑に職場に適応することができるよう、当事業所に配置されているジョブコーチが事業所に出向き、職場内において様々な支援を行います。



清掃作業



印刷製版作業

就労継続支援 B 型

パンやクッキーなどの製造・販売を行う食品加工を始め、企業等から受託した軽作業、印刷関連作業、自主製品の製作などの生産系作業と植栽管理、清掃などのサービス系作業による働く場を提供しています。また就労に必要な知識・能力を高めるための支援を行います。



パンの製造・販売（店舗「焼きたてパン AKE-BUONO」）

研究・ 研修

「自分らしく」を支える

障害者や高齢者等を含むすべての人たちがいきいきと安心して生活できることを基本にした、ユニバーサル社会の実現を目指す取り組みです。

まち・住まい・交通など安全なまちづくりの研究や、

お身体に障害のある方ひとり一人のQOLの向上を目指した

義肢装具や福祉機器の開発や改良を行っています。

また医療・福祉・介護に携わる人材育成のための研修の実施や、福祉用具・住環境改善の普及啓発をすすめています。

福祉のまちづくり研究所



ユニバーサル社会実現のため、兵庫県が全国に先駆けて制定した「福祉のまちづくり条例」の理念をもとに研究所を設置。主として工学的な見地から広範な課題について実践的研究を行い、その結果を県民に提供しています。また保健医療福祉従事者に向けての技術研修や、福祉関連事業所運営に必要とされている人材育成研修及び福祉用具普及事業を実施するなど、兵庫県の研究・研修拠点としての役割を担っています。

研究

【研究開発と政策提言】

「まち・すまい・モビリティ(移動)・コミュニケーション機器」や「福祉用具・義肢装具・リハビリテーション支援技術・ロボットリハビリテーション」の分野ごとの研究テーマを設定し、研究開発を行うとともに、その成果の発表や政策提言を行い、行政や企業における福祉のまちづくりの推進を支援しています。



研究成果発表会

【企業・大学等との共同研究】

研究テーマに基づく研究開発やその実用化にあたって、企業や大学等との共同研究を実施するとともに、その成果の活用により福祉のまちづくりの具体的な浸透を図っています。

【義肢装具の製作・修理事業】

公的施設に設置された補装具製作施設として、障害者総合支援法や労働者災害補償保険法に基づく、義手義足・装具の製作修理事業を実施しています。

【情報発信】

機関誌「アシステック通信」や毎年度の研究内容をとりまとめた「報告集」の発行、また研究成果発表会やセミナー等のイベント、ホームページの開設等を通じて広く関係者に情報発信をしています。また産学官関係機関の会員の方々に構成されている「ひょうごアシステック研究会」を支援し、交流の場を支援しています。

研修

【高齢者支援関連研修】

県からの委託を受け、介護予防推進研修、介護啓発者研修、認知症介護研修等を実施しています。

【障害者支援関連研修】

県からの委託を受け、相談支援従事者研修、サービス管理責任者研修、障害者虐待防止・権利擁護研修等を実施しています。

【福祉用具・住環境改善等普及啓発研修】

福祉用具の選定方法や使い方、住環境改善や腰痛予防にかかわる知識・技術の向上を図るため、実技や実習を重視した研修を実施しています。

【福祉用具普及事業】

約1200点の福祉用具を展示している福祉用具展示ホールや、様々な福祉用具や住宅設備機器を備えたウェルフェアテクノハウス神戸を拠点とし、「効果的な福祉用具の普及」を目指しながら、相談支援や各種イベント開催、情報発信等を行っています。

ウェルフェアテクノハウス 神戸

さまざまな住宅介護機器等の設備を整え、高齢者・障害者の住宅のあり方や住宅改修についてのアドバイスを行っています。



車いす利用者向け通路幅の検証



交通事業者向け研修



車いすの適合検査



食事動作のX統計測



研修



展示ホール



ウェルフェアテクノハウス神戸

地域支援

いつもの、住み慣れた暮らしを実現

特別な望みではありません。「顔なじみのご近所さんとともに、住み慣れたわが家でふつうに暮らすこと」。
障害者や高齢者が地域にとけ込み、安心してわが家で暮らすためのサポーターとして、医療や福祉に関するさまざまな相談、訪問看護、居宅介護を行っています。

総合リハ総合相談所



医療、福祉に関するさまざまな相談にワンストップで対応しています。相談内容に応じて医療、福祉、社会保障制度、情報提供、訪問など関連する各機関と連携し、きめ細かな対応を行っています。

■一般相談

訪問看護、訪問リハ、居宅介護支援、地域生活、在宅生活など全般

■専門相談

介護保険・障害者総合支援制度、高次脳機能障害

■事業所・窓口

◎高次脳機能障害相談窓口

◎たまつあけぼの障害者地域生活支援センター

◎総合リハ居宅介護支援事業所

◎総合リハ訪問看護ステーション

◎総合リハ在宅ケアステーション



高次脳機能障害相談窓口

脳外傷や脳疾患などで起こる高次脳機能障害の方を対象に、医療、社会保障制度、就労就学に関する相談から福祉サービスまでトータルにサポート。居住地の相談支援事業所や家族会などの関連機関と連携をとるなど兵庫県の拠点機関としての体制を強化しています。



高次脳機能障害相談窓口

たまつあけぼの障害者地域生活支援センター

神戸市(主に西区)に在住の身体障害者・精神障害者・知的障害者や障害児とその家族、および介助者からの相談を受けて適切な専門機関を紹介するとともに、地域で生活している障害者(児)が安心して生活を営めるよう支援します。



たまつあけぼの障害者地域生活支援センター

総合リハ居宅介護支援事業所

病気や高齢のために介護が必要になっても、できるだけ住み慣れた自宅で安心して過ごせるよう、ケアマネジャー(介護支援専門員)がそれぞれの状況に沿ったケアプラン作成などの相談に応じ、介護サービス利用の調整をします。



総合リハ居宅介護支援事業所

総合リハ訪問看護ステーション

看護師、理学療法士や作業療法士が自宅を訪問し、主治医の指示のもとにそれぞれの病状や障害に応じた看護やリハビリテーション、療養生活を支えるためのサービスを提供します。



総合リハ訪問看護ステーション

総合リハ在宅ケアステーション

訪問介護員が自宅を訪問し、介護が必要となられた方においても、その方が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活ができるためのサービスを提供します。



訪問のようす

福祉施設の紹介



救護施設 のぞみの家

生活保護法38条で規定された保護施設で、様々な障害があり地域においてひとりで生活することが困難なため保護を必要とされる方々を受け入れ、日常生活の自立に向けて支援を行っています。

また、社会のニーズに応えられる救護施設であるために、地域のセーフティネットの一翼としてホームレス等の社会的支援を一時的に必要とする方々を受け入れ、地域生活への移行支援や自立に向けた支援を積極的に実施しています。

■救護施設 入所 100人

■実施事業 居宅生活訓練事業・一時入所事業

■主な設備（居室）

◎2人室／洋室30室・和室20室

◎特殊浴槽

居宅生活訓練事業

障害等の軽減が図られた利用者の、地域での在宅生活に移行準備を整えるため、福祉事務所等と連携し近隣のアパート等を借り上げ、居宅生活のための訓練を実施し在宅生活に繋げていきます。

一時入所（事業）

地域で生活する方で、精神状態が一時的に不安定になる等の理由により居宅生活が困難となった方や、精神病棟へ入院されている方等で、退院に向けた施設の体験利用や訓練のために、一時的に入所することが適当とされる方々への支援を行います。また、保護機関が特に一時的入所の必要があると認めるホームレス等に対しセーフティネットの受け皿としての支援を行います。

日中活動の充実

日中の時間を利用して、緩衝材の袋詰めや中央病院の屋外リハ訓練場の清掃等作業として行っています。

また、多くのボランティアの方々の協力により、生花クラブ・陶芸クラブ・音楽クラブ・セラピードッグの実施や茶話会のお手伝い等をしていただいています。また、当センターの他部門の協力を得て理学療法士や作業療法士によるリハビリの指導を受けたり、体育指導員によりスポーツレクリエーションを実施しています。

ボランティアの方々には、日々の生活の充実だけでなく利用者の方々の繕い物等の支援もしていただいています。

医務室

医療法に基づく医療機関として、中央病院をはじめ近隣の医療機関と連携を取りながら、救護施設「のぞみの家」と特別養護老人ホーム「万寿の家」利用者の医療サービスを行っています。また、施設医療の充実を図るため、各施設の看護師と定期会議を行い連携し、日々の看護サービスの向上に努めるとともに、利用者の定期健診（2回/年）や予防接種、歯科検診等を行っています。

■診療科目 ◎内科・歯科：2回/週 ◎眼科：2回/月



居宅介護訓練



生花クラブ



清掃活動



日帰り旅行



特別養護老人ホーム 万寿の家

利用者が能力に応じて可能な限り自立した日常生活ができるよう、より専門的な介護福祉サービスを提供しています。

また、医師や地域医療との連携を図り、ターミナルケアにも取り組んでいます。

その他、ショートステイ（空床利用型）への対応や、介護福祉士養成学校等の実習生及びボランティアの受け入れを積極的に行い、広く地域に開かれた施設運営を目指しています。

短期入所生活介護（ショートステイ）事業

自宅で生活されているご利用者の心身状態の維持安定と、介護されている方の負担軽減等のため、一時的に施設に入所していただき介護サービスを提供します。ご家族やケアマネジャーからの依頼で利用日を調整します。

- 特別養護老人ホーム 85人
- 短期入所生活介護事業 7人
- その他の事業：障害者短期入所事業（空床利用型）
- 主な設備（居室）
 - ◎4人室／17室 ◎3人室／2室
 - ◎2人室／7室 ◎1人室／4室



ナイター観戦



ボランティア活動

癒し犬 たきお



日帰り旅行

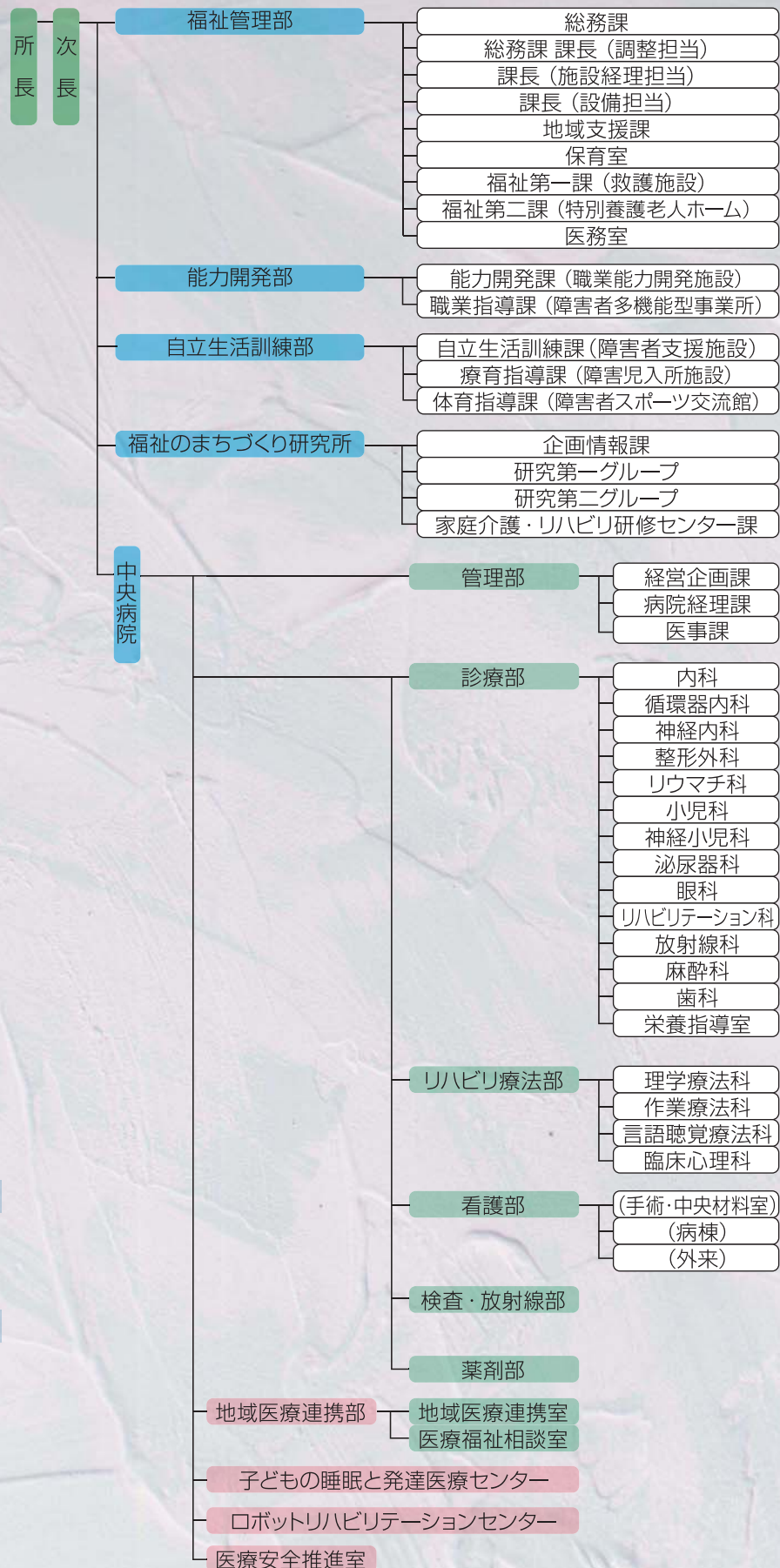


散策活動

主な沿革

昭和 21 年 (1946)	6/1	兵庫県が、元川崎航空機工業株式会社明石工場の工員宿舎であった土地、建物を買収
	7/13	海外引揚者及び戦災者の応急援護施設「兵庫県立玉津寮」発足
22 年 (1947)	4/1	生活保護法に基づく養老施設「年寄りの家」入所定員 200 名)、児童福祉法に基づく母子寮「母子の家」(定員 400 名)、養護施設「子供の家」設置
23 年 (1948)	10/1	児童福祉法に基づく保育所「玉津寮保育所」開設(定員 150 名)
27 年 (1952)	2/1	医療法に基づく「県立玉津寮診療所」設置
	4/1	身体障害者授産施設開設(入所定員 45 名) 授産科目(洋服科、洋裁科、謄写筆耕科、鉄工科)
	11/1	生活保護法に基づく施設として「県立玉津寮救護施設(救護の家)」設置(入所定員 27 名)
40 年 (1965)	11/1	特別養護老人ホーム開設(入所定員 100 名)
41 年 (1966)	4/1	養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、救護施設、診療所の管理運営を県から「社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団」(以下「社会福祉事業団」という)に委託
43 年 (1968)	4/1	身体障害者授産施設、法外援護施設引揚者住宅、母子寮、保育所の管理運営を社会福祉事業団に委託
44 年 (1969)	3/31	母子寮「母子の家」廃止
	10/1	県政百年記念事業として中央病院(病床数 94 床)を含むリハビリテーションセンターを設置 「兵庫県立玉津寮」と統合し「兵庫県玉津福祉センター」に改組
45 年 (1970)	2/1	養護老人ホーム「年寄りの家」を「長寿の家」に、救護施設「救護の家」を「のぞみの家」に、特別養護老人ホームを「万寿の家」に、身体障害者授産施設「福祉の家」を「あけぼのの家」に、保育所を「子鹿園」に改称
	4/1	肢体不自由者更生施設「機能回復訓練課」設置(入所 55 名、通所 5 名) 県立身体障害者更生相談所が当センターに移転
	6/19	「引揚者住宅」廃止
46 年 (1971)	4/1	補装具製作施設「義肢装具開発課」設置
50 年 (1975)	2/1	「子鹿園」を廃止し、「院内保育室」設置
	5/1	勤労身体障害者体育館設置
52 年 (1977)	7/1	職業能力開発施設「能力開発センター」設置
平成 4 年 (1992)	3/31	養護老人ホーム「長寿の家」廃止
	4/1	新病院(リハビリテーション中央病院)移転開設(病床数 300 床) 「県民すこやか介護研修センター」設置。「兵庫県玉津福祉センター」を「兵庫県立総合リハビリテーションセンター」に改称
5 年 (1993)	10/20	「福祉のまちづくり工学研究所」設置 「県民すこやか介護研修センター」を「家庭介護・リハビリ研修センター」に改組。
	11/1	重度身体障害者更生援護施設「自立生活訓練センター」設置(入所定員 150 名) 肢体不自由者更生施設廃止
	12/3	救護施設「のぞみの家」移転開設
7 年 (1995)	2/28	身体障害者自動車運転習熟訓練施設設置
8 年 (1996)	3/18	「ウェルフェアテクノハウス神戸」設置
	11/15	「福祉のまちづくり工学研究所」、「家庭介護・リハビリ研修センター」移転開設
9 年 (1997)	4/1	「総合案内所」設置 「ふれあい会館」設置
10 年 (1998)	2/28	中央病院に屋外リハビリ訓練施設設置
17 年 (2005)	4/1	特別養護老人ホーム「万寿の家」が県立から事業団立へ
18 年 (2006)	5/20	「障害者スポーツ交流館」設置
19 年 (2007)	1/15	総合リハ「訪問看護ステーション」開設
20 年 (2008)	4/1	中央病院に、小児部門「小児リハ」及び「子どもの睡眠と発達医療センター」開設(病床数 30 床) 肢体不自由児療護施設「おおぞらのいえ」開設(定員 20 名) 県立のじぎく特別支援学校分教室「おおぞら分教室」開設
21 年 (2009)	4/1	「福祉のまちづくり工学研究所」と「家庭介護・リハビリ研修センター」を「福祉のまちづくり研究所」に統合 救護施設「のぞみの家」、障害者支援施設「あけぼのの家」、「自立生活訓練センター」が県立から事業団立へ
22 年 (2010)	6/15	「総合リハ総合相談所」開設
23 年 (2011)	4/1	中央病院に「ロボットリハビリテーションセンター」開設

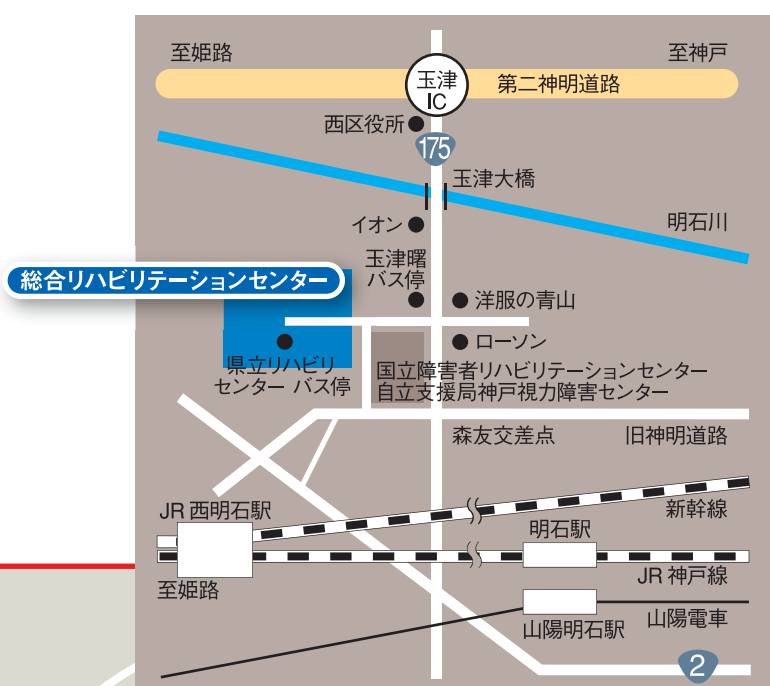
組 織



■職員現員表 平成 25 年 4 月 1 日現在

職種	人数(人)
事務職員	41
医療ソーシャルワーカー	4
義肢装具士	1
技師	2
支援員	122
体育指導員	5
職業訓練指導員	2
職能評価員	2
職能開発員	1
開発指導員	4
技術指導員	1
医師	29
研究員	8
薬剤師	7
心理判定員	5
理学療法士	45
作業療法士	32
言語聴覚士	13
臨床検査技師	10
診療放射線技師	7
管理栄養士	6
看護師	164
自動車運転員	1
合計	512

正規職員 404 人



社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 総合リハビリテーションセンター

〒651-2181 神戸市西区曙町1070 TEL078-927-2727 (代) FAX078-928-7590
<http://www.hwc.or.jp/rihacenter/>

アクセス

(明石駅から 約4km)

■JR神戸線 明石駅

タクシー(約15分)

■山陽電車 明石駅 神姫バス(約15分)

北4番 県立リハビリセンター行き(終点下車すぐ)

南1番 三木・社・押部谷行き(玉津曙下車、徒歩5分)

南1・5番 西神中央行き(玉津曙下車、徒歩5分)

(西明石駅から 約2km)

■新幹線 西明石駅・JR神戸線 西明石駅

タクシー(約10分)

神姫バス(約20分)

1番 明石駅行き(県立リハビリセンター下車すぐ)